

 ROTARY CLUB OF NARITA AIRPORT MINAMI DISTRICT 2790		WEEKLY BULLETIN 国際ロータリー第2790地区第6分区 創立 昭和11年10月6日 承認 昭和41年11月21日	
成田空港南R.C. 会長テーマ 小さな親切		例会日時 毎週木曜 12:30点鐘 (最終例会 18:30点鐘) 例会場 中国ダイニング富士屋	
事務局 〒280-1792 千葉県山武郡横芝光町横芝1519-6 TEL 0479-80-1177 FAX 80-1178		URL http://www.narita-airport-m-re.jp E-mail info@narita-airport-m-re.jp	
第2790地区ガバナー 中村 博哉 第6分区ガバナー補佐 西之宮 由己			
平成22年2月25日発行 NO.1920 第2048例会 会長 鈴木 恭一 幹事 古西 弘和 会報担当 伊藤 元雄			

移動例会 平成22年2月24日(水)～25日(木) 1泊2日

家族親睦旅行 *修善寺温泉と米山梅吉記念館巡り*



源 頼朝 旗揚げの地



会長挨拶

みなさん、こんばんは。早朝より家族親睦旅行、『修善寺温泉と米山梅吉記念館巡り』1泊2日の旅行に23名の家族と会員の皆様方にご参加いただきまして、ありがとうございます。

私がロータリーに入会して13年目で、一度は見学をしたいと思っておりまして、日本のロータリーの創始者である米山梅吉翁の功績を称えて建てられた、静岡県長泉町の米山梅吉記念館の見学が実現しました。感謝を申し上げます。

記念館では米山梅吉翁とポールハリス氏の銅像から始まり、パネル写真を見ながら、生い立ち、経歴、東京ロータリークラブの創立、社会奉仕の記録等の説明を記念館の人から受け、最後には「人には見えない所で、右手と左手はつながっている」という米山の精神に感銘を受け、参加者は改めて米山梅吉翁の遺徳を偲びました。

ところで、ロータリー事務所内の壁に菅井さんが貼ったと思いますが、『たった一言が人の心を傷つける、たった一言が人の心を暖める』と書いてありました。本当にそうだと思います。

又、人生には3つの坂があると言われていますが、上り坂・下り坂は、人生一生の内では、半分半分だそうですが、もう一つの大きな坂は、『まさか』という坂があるそうです。この『まさか』が、人生を狂わせる程の大きな坂にならないようにしたいものです。

この家族親睦旅行は、会員・家族同士の親睦を更に深めると思っていますので、来期 森川年度も是非続けて下さい。旅行にあたり、クラブ幹事・クラブ管理運営委員会・小林定雄委員長、親睦委員会の杉森幹男担当、そして両総観光の川島会長と会員の皆様には大変お世話になりました。あと4ヶ月ありますが、皆様のご協力をお願い致します。簡単ですが挨拶にかえさせていただきます。

■ 米山梅吉記念館を訪ねて

R財団委員長 向後雅生

去る平成22年2月24日～25日一泊二日の家族親睦旅行が行われました。目的は米山梅吉記念館見学を兼ねて、修善寺温泉に宿泊し、親睦を図る為でした。

貸切りバスの車中では「米山梅吉翁その生涯」のビデオが放映され、日本のロータリー創始者である米山梅吉翁の功績に深く感動致しました。平成21年春に発刊された「米山梅吉記念館報13号」の中で、渡辺修助理事長が次のように述べております。「米山梅吉記念館」を「米山記念奨学会」の付属の施設と誤解している方々が非常に多いとの事です。バスの中で全員改めて共感いたしました。この記念館は、R I 第2620地区（静岡、山梨）の静岡東部11ロータリークラブが主になって、1969年（昭和44年）静岡県教育委員会の許可で設立された財団法人であります。一方「奨学会」は、在日留学生への育英事業を目的とする文部科学省の財団法人であります。しかし、「米山梅吉記念館」は運営も財源も全く異なる組織であります。館の現状は大変厳しく、記念館を維持する為に年間1400万円程必要とのことで、全ロータリアンからの募金によりこれをまかなっているそうです。

その後、温泉の宿での親睦会はカラオケで大変盛況でした。



成田空港南ロータリークラブ家族親睦旅行
米山梅吉記念館



■ サケ稚魚放流式（3月2日）

会長 鈴木 恭一

東小学校のみなさんおはようございます。

成田空港南ロータリークラブの会長の鈴木です。本日は芝山町町長の相川勝重様がお見えになっております。相川様には私共ロータリークラブの名誉顧問になって頂いております。ご苦労様です。私達ロータリアンも東小学校生徒と共にサケの里親となって頂き『孵化から放流までを体験する』というこのような企画を致しました。ロータリークラブは地域に密着した奉仕活動を通じて環境保護の意識を高めてまいりましたが、今回はサケの飼育を通じて小学生に命の尊さ、大切さを学んでほしいことを願い、校長先生をお願いをして子供達にもサケの里親になってもらいました。サケは放流された場所に戻ると言われております。3～4年後、この高谷川の自然が今以上保護されサケが

戻って来ることを信じ、そして成長した子供達が安心して暮らせるような地域環境であることを願います。この企画にあたり栗山川漁業組合石井文男組合長様には大変お世話になりました。又、子供達には魚の絵柄のファイルを作り今日渡す予定でしたが間に合わず4月に入ってしまうそうです。6年生は卒業してしまいましたが校長先生にお願いし届けて頂きますので待っていて下さい。寒い中、東小学校生徒の皆さん、ロータリアンの皆さん、本当にご苦労様でした。



鈴木会長・相川芝山町長と芝山町東小学校のみなさん